

歴史・文化探訪の会 第40回 長久手古戦場・岩崎城探訪会報告

梅雨の候、会員の皆様にはお健やかにお過ごしのことと存じます。

さて、去る5月17日（日）に実施しました第40回探訪会「長久手古戦場・岩崎城を巡る」並びに令和8年度総会について、ご報告致します。

初夏の暑すぎる位の天候の中、熱中症に気をつけながらも、無事探訪会を実施することが出来ました。探訪会を振り返ってみます。

集合予定の10時00分、リニモ長久手古戦場駅に予定の16名が集合し、探訪会を開始した。

徒歩5分で長久手古戦場記念館に到着、1Fに上がり（入口がBF）ガイドの紹介と挨拶を受けた。その後シアターへ移動、長久手古戦場で徳川軍と豊臣軍の戦いについてビデオ映像を見学した。映像見学後、館内をガイドの説明を受けながら、長久手での合戦の屏風絵、武具の展示等を見学した。

天正12年（1584年）秀吉軍と家康軍は、犬山の楽田（犬山市）と小牧山（小牧市）に陣を敷き対峙していた。4月、秀吉軍は密かに家康の本拠地岡崎への侵攻を企てる（三河の中入り）。しかし家康はすぐに秀吉軍の動きを察知し、追撃を開始した。秀吉方の最後尾総大将の三好秀次は白山林（尾張旭市）にいたが、急襲を受け総崩れとなった。徳川本隊は岩作の色金山を経て仏が根付近（記念館のあたり）に布陣を完了した。三好隊の大敗を知った池田恒興はただちに岩崎城から引き返し、家康軍に対し、長男の元助を右翼、娘婿の森長可を左翼に配した。4月9日午前10時ごろ、両軍が激突、戦闘は2時間余り続いた。乱戦の中、長可が銃弾を受け戦死すると、戦況は家康軍優勢となり、その後恒興、元助も討たれ、戦いは徳川勢の勝利に終わった。この戦いで秀吉軍は2500余人、家康軍は590余人の死者を出している。

記念館を出て、ガイドの案内のもと、徒歩での古戦場巡りをスタートした。

まず古戦場公園内の「勝入塚」（池田勝入斎恒興戦死地）と「庄九郎塚」（恒興の長男池田紀伊守元助（幼名庄九郎）戦死地）を見学した。恒興は49歳、元助は26歳であった。

古戦場公園から少し西に歩き、「武蔵塚」（森長可戦死地）を見学した。長可は勇猛果敢で「鬼武蔵」と呼ばれたが、27歳の若さで命を落とした。長可は森蘭丸の兄である。

武蔵塚を後に、色金山に向かってひたすら歩き、途中製菓店前で小休止、給水時間を取り、更に10分ほど歩き「首塚」に到着した。「首塚」は、長久手の戦いの戦死者を、安昌寺の雲山和尚と村人たちが、敵味方無く埋葬し、手厚く供養した場所である。

首塚を後に、すぐ安昌寺に到着した。安昌寺は雲山和尚がいた曹洞宗のお寺で、門前の立派な菩提樹が市の保存樹木になっている。境内の岩作観音堂を見学した。

お寺の裏手に回り、急な階段を上り、暫く行って、色金山の山頂に到着した。家康はここから四方を見渡し軍議を行ったといわれている。家康が腰掛けたといわれる「床机石」を見学、展望テラスに移動した。

ここで、会員の吉岡先生から着物に着替えて「剣舞」を披露して頂いた。居合わせた観光客とともに、滅多に見られない舞を鑑賞した。「剣舞」の鑑賞後、記念撮影をして、昼食会場の「ひらのや」に向かった。ガイドの案内はここ迄で、お礼の挨拶をして別れた。

予定の時間に大分遅れたが「ひらのや」に到着、ここで1名加わり17名となり、40分ほど総会と昼食・歓談の時間を持った。

昼食後、タクシーに分乗し岩崎城に向かった。20分ほどで岩崎城址公園駐車場に到着、徒歩5分ほどで歴史記念館前に到着、ガイドの挨拶と岩崎城についての簡単な説明を受けた。

岩崎城の戦いでは、城主の兄の丹羽氏次が小牧山城に向かったため、弟の氏重が留守を守ることになり、天然痘を患い病身であったが、わずか300人で6000人の池田軍を迎撃、3時間ほどの戦いむなしく、最後は全滅した。氏重は16歳であった。この一戦で丹羽家は家康から大きな信頼を得た。

説明を受けた後、二手に分かれて、ガイドの説明を受けながら、隅櫓跡、空堀、櫓台、表忠義碑、古墳、記念館内など城内を40分ほど見学した。見学を終わり、石の急階段を下り、模擬天守を背景に記念撮影をして、探訪会を終了した。終了後バス停に移動、各々帰途に就いた。

以上ご報告致します。

